

なお、本大会は4年に1度行われており、今回は2019年に台北（台湾）で開催される予定である。
（小島克久 記）

シンガポールの人口高齢化及び国際人口移動の実態と その要因に関する資料収集

厚生労働科学研究費補助金（地球規模保健課題推進のための行政施策に関する研究事業）による研究事業「東アジア、ASEAN 諸国の人口高齢化と人口移動に関する総合的研究」の一環として、2015年11月5～11日にかけてシンガポール、また11月12、13日にクアラルンプール（マレーシア）に滞在し、両国の政府統計局や国立図書館、シンガポール政府移民局等を訪問し、最新の統計資料の収集を行った。また、シンガポール政府統計局及びシンガポール国立大学政策研究所において「シンガポールにおける将来人口推計」について研究報告を行い、将来人口推計の方法や出生促進政策の効果の影響、国際人口移動の見通し、移民受入の考え方等について意見交換を行ったほか、シンガポール国立大学アジア研究所の主催で行われた「災害難民：環太平洋地域におけるグローバル時代の災害対策」セミナーに出席し、出席した専門家と意見交換を行った。いずれも人口の少子高齢化及び国際人口移動の実態とその要因に関し社会・政治・経済・文化的変動について多面的な意見交換を行うとともに、統計調査データ・論文・報告書を含む資料を収集できた点で成果があった。（菅 桂太 記）

台湾における低出産・高齢化と政策的対応に関する資料収集

厚生労働科学研究費による研究事業「東アジア、ASEAN 諸国の人口高齢化と人口移動に関する総合的研究」の一環として、筆者が11月18日～21日にかけて台湾に出張し、専門家との面談と資料収集を行った。面談した専門家は、陳玉華教授（国立台湾大学）、楊文山博士・于若蓉博士・蔡明璋博士・范毅軍博士・詹大千博士ら（中央研究院）、蔡青龍教授（淡江大學）等である。また筆者は、中央研究院亞太區域研究專題中心で“Confucian Family Pattern and Low Fertility”，同社会学研究所で“Long Term Population Trend in Eastern Asia since the Early 20th Century”と題する報告を行い、有意義な討論を行うことができた。（鈴木 透 記）

第30回日本国際保健医療学会学術大会

2015年11月21日（土）・22日（日）、金沢大学にて、「世界の健康と医薬品課題の解決に向けて」というテーマのもと第30回日本国際保健医療学会学術大会が開催された。9月に国連総会で持続可能な開発目標（SDGs）が採択されたことをうけて、SDGsの保健分野における取組、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）、エボラ出血熱や顧みられない熱帯病（NTDs）など、多くのテーマに関するセッション・報告が行われた。筆者は、「タテからヨコへ～リソースをどう使うか～UHCの経験と応用」というミニシンポジウムを企画し、日本の結核対策が国民皆保険制度構築につながったのか、また今後その経験を他国に生かしていけるのか、という点を議論した。また「グローバル・エイジングへの国境なき挑戦」自由集会では、ケア人材の国際人口移動について報告を行った。

なお、北陸新幹線が2015年3月に金沢まで開通し祝日込の週末であったことや、外国人観光客の増